

産業事故の発生防止に向けた取り組み

2013 年 2 月 28 日

電気事業連合会

1. 電気事業連合会による取り組み

電気事業連合会では、業界全体の保安レベルの向上を目的とし、電力各社の自主的保安の取り組みに資する次のような取り組みを行っている。

(1) 情報共有の取り組み

①設備部門の取り組み

設備（火力、水力、送電、変電、配電）ごとに、設備を所管する責任者を対象に会議を開催し、事故・障害に関して、事象だけではなく背景・原因や再発防止対策などの情報を共有し、他社知見の水平展開による同種の事故・障害の未然防止など、各社保安レベルの向上に取り組んでいる。

②安全衛生部門の取り組み

各社の安全衛生を担当する責任者を対象に、会議やデータベースを利用し、安全に関する取り組みや課題等の情報共有および水平展開を実施し、各々の知識レベルを向上させ、各社の取り組みに反映させる活動を実施している。

(2) 労働安全衛生関係統計の作成・共有

災害発生状況等の統計資料を毎年作成して各社で共有し、各社が業界全体の中での自社の状況を把握し、その後の取り組みに反映できる活動を実施している。

2. 企業による自主的保安の取り組み（関西電力の例）

(1) 「安全最優先」の事業活動

「安全を守る。それは私の使命、我が社の使命」との社長宣言の下、「安全」を経営の最優先課題として掲げ、事業活動を行っている。保安規程等に基づき保安管理を適切に実施し、公共および作業員の安全確保と、電力の安定供給を円滑に行うことを目的に事業計画を展開するとともに、PDCAサイクルを継続的に廻し、保安管理活動の自立的な改善を行うこと等を通じて、ゆるぎない安全文化の構築を図っている。

（２）経営トップと現場との意思疎通の円滑化

あらゆる機会を通じて、経営層と従業員との双方向コミュニケーションを行うとともに、経営層より安全・品質ほかに係る想いを伝えている。また従業員のみならず、協力会社との意見交換が活発となるよう、風通しのよい環境作りと、意見に対するフォローを確実に行うことで、リスクをマネジメントしている。

（３）人材の育成

下記の各種研修を計画的に実施するとともに、各職場でのＯＪＴ等により、リスクを評価する力および技術、技能といった現場力の維持向上を図っている。

また研修プログラムの継続的な向上のため、結果を確実に評価し、必要な改善を行っている。

＜主な研修＞

- 階層別（ステージレベル別）一般研修
- 部門別専門研修
- 安全衛生共通研修（安全管理，リスクアセスメント研修を含む）

以 上